



きょうのテーマ

いよいよ今年も海のレジャーが楽しい季節がやってきたね！ 浜辺をきれいにしようと、ごみを拾うビーチクリーンが各地で行われているよ。国連の持続可能な開発目標（SDGs）の14番目「海の豊かさを守ろう」



地球のためにできること

ビーチクリーン

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

プラゴミ削減地道に行動



の豊かさを守ろう」にながる取り組みだね。どんなごみが多いんだろう？

「何でズボンが落ちてくるの？」「自転車のタイヤもあるよ」

6月27日、宮城県南三陸町の南三陸・海のビクターセンターが近くの海岸で開いたビーチクリーン。町内外の4人が参加し、15分でごみ袋3枚分（重さ約10キロ）のごみを回収しました。



1カ所に集めてどんなごみがあるか調べました。ペットボトル、空き缶、弁当の容器、ハンカシ、漁業用の網やロープ



海のごみについて理解を深めたビーチクリーン＝6月27日、宮城県南三陸町

私たちの生活に身近な物が目立ちます。

「気になるごみはありますか？」。南三陸・海のビクターセンターの太

斎彰浩さん（56）が問いかけると、宮城県利府町利

府小3年の山内このみさん（8）が飲みかけのお茶

が入ったペットボトルを指さしました。

「このごみはどこから来たのかな？ 誰かが海に落としたのかな？」と

指さしました。

太斎さん。もちろん答え

は分かりませんが、参加者は思い思いに想像を巡らせました。



ごみは本来、適切に処理すれば海に流れ出ることはありません。しかしポイ捨てされたごみは、風に飛ばされたごみは、水路や川を通じて海へ流れ込んでしまっています。

特にペットボトルなどのプラスチック類のごみ

は「海洋プラスチック」と呼ばれ、社会問題になっています。自然に分解されず地球上に残り続けるため、魚が誤って食

べてしまうなど、海の生き物や環境に悪影響を及ぼしているからです。

安くて便利なプラスチック製品は広く出回っています。海に流出するごみをゼロにするのは簡単

ではありませんが、一人一人の意識次第でごみを減らすことはできます。

太斎さんは訴えます。

「プラスチック製品をできるだけ使わないのが一番ですが、使っても責任を持ってしっかり捨てる

ことが大事です」

◇

マイボトルやマイバッグを持つ、詰め替え用ボ

トルを使う、ごみの分別を徹底する。こうした地道な行動の積み重ねが、

プラスチックごみの削減につながるよ。

この日 何の日

◇12日（日） ラジオ本放送の日

1925年のこの日、社団法人東京放送局（現NHK）がラジオの本放送を始めたんだよ。2年前に関東大震災が発生。災害情報伝達の重要性が認識され、放送事業の早期立ち上げにつながった。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どき
- 3面 連載「古代のモンスター」
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて話して こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 対訳備えのコンパス